

第7次稲沢市総合計画策定に向けた各種基礎調査等の実施について

1 次期総合計画策定に向けた市民参画プログラム

1) 稲沢市市民意識調査

調査目的	市民の暮らしや理想のまちのイメージ等について把握する
調査対象	市内在住の15歳以上の方2,500名（令和7年10月時点）
抽出方法及び条件	住民票から無作為抽出
調査方法	調査票を郵送にて配布し、郵送又はオンラインにより回収
調査期間	令和7年10月29日（発送日）から11月17日
回収数及び回収率	856件（うちオンライン回答466件）、回収率34.2%
設問数及び 主な調査項目	全32問 ・ 回答者自身や家族について（9問） ・ 回答者の日常生活について（2問） ・ 回答者が稲沢市に対して感じていることについて（6問） ・ 回答者が稲沢市で希望する暮らしについて（3問） ・ 回答者の稲沢市の現状に対する満足度について（1問） ・ 回答者の生活行動について（11問）

2) 次世代によるまちづくり提案

調査目的	大学生に稲沢市のまちづくりに対して意見・提案をいただく。		
対象	名古屋文理大学との連携事業「地域の課題」の講義受講者		
開催期間	令和7年11月28日から12月19日		
参加者	20人		
開催回数	全4回		
テーマ	稲沢市のまちづくり～こうして私は稲沢市を選んだ～ 将来希望する暮らしと、それを稲沢市でどのように実現しているかをエッセイとして執筆		
開催概要		日時	内容
	第1回	令和7年11月28日 10:40～12:10	趣旨説明・ワークショップの紹介・稲沢市の現況説明 課題提示、グループワーク
	第2回	令和7年12月5日 10:40～12:10	調査・資料作成 進捗確認 ※2グループに分かれて進捗を報告
	第3回	令和7年12月12日 10:40～12:10	調査・資料作成
	第4回	令和7年12月19日 10:40～12:10	発表・質問（3～4分程度×20人程度）評価 総評・御礼

3) 市民ワークショップ（みらいまちづくりラボ）

開催目的	- 主に将来都市像や重点プロジェクト等の検討に資するキーワード・キーセンテンスを収集するために開催する。 - 市民が主体的にまちづくりや地域活性化に関わることができることをイメージしてもらい、市民活動活性化のきっかけとする。 - 総合計画に関する関心を持ってもらい、計画策定に向けて積極的に意見・提案してもらうきっかけとする。				
対象	稲沢市に在住・在勤・在学の人（概ね 15 歳以上）				
募集方法	市民意識調査に開催案内を同封 稲沢市ホームページに開催案内を掲載				
募集期間	令和 7 年 10 月 29 日（市民意識調査発送日）から令和 8 年 3 月 15 日				
開催回数	全 3 回				
開催概要		日時	場所	参加者数	テーマ
	第1回	令和 8 年 1 月 17 日 9:30～12:00	勤労福祉会館 第 2・3 研修室	20 人	稲沢市の魅力を再発見する
	第2回	令和 8 年 2 月 21 日 9:30～12:00	勤労福祉会館 第 2・3 研修室	19 人	稲沢市のウェルビーイングな暮らしを考える
	第3回	令和 8 年 3 月 20 日 9:30～12:00	勤労福祉会館 第 2・3 研修室	14 人	まちづくりのキャッチコピーを考える

4) 小学生アンケート調査

調査目的	小学生の持つまちの印象や理想とするまちの姿、まちへの提案等について把握する
調査対象	市内の小学校に通う 5・6 年生（全校を対象）
調査方法	各小学校に回答依頼しオンラインにより回収
調査期間	令和 8 年 1 月上旬から 2 月上旬
回収数及び回収率	23 校 1,882 人（5 年生 948 人、6 年生 934 人）
設問数及び 主な調査項目	全 6 問 - 住んでいるまち（稲沢市）の好きなところ - 住んでいるまち（稲沢市）のきれいなところ - 稲沢市にどんなまちになってほしいか - 市長になったら、稲沢市を子どもたちが好きなまちにするためにしたいこと

5) 市民インタビュー

調査目的	市内の人口動向に影響を与える各種要素（雇用・労働、住宅供給、就学等）の現状や、地域活性化をはじめとした政策ニーズを把握する		
調査対象	市内に本社・事業所を有する企業等や教育機関 20 者		
調査方法	訪問インタビュー（60～75 分程度）		
調査期間	令和 8 年 1 月から 5 月		
設問数及び 主な調査項目	分類	件数	主な聞き取り項目
	主要企業	2	- 稲沢市の操業環境の評価 - 人材の過不足感と採用動向 - 地域貢献活動の実施状況
	支援機関	6	- 市内企業の業況や人材の過不足感 - 融資先・会員企業からの相談動向 - 後継者の有無・事業承継の支援ニーズ - 今後重点的に取り組む活動
	中堅中小企業	2	- 稲沢市の操業環境の評価 - 人材の過不足感と採用動向 - 女性活躍に向けた取組と課題 - 補助金等の活用状況、行政・支援機関に対する要望
	ベンチャー	1	- 稲沢市の創業機運 - 稲沢市の創業環境に対する評価 - 補助金等の活用状況、行政・支援機関に対する要望
	観光・交流	2	- 主な活動の状況 - 観光交流における地域のポテンシャル - 地域や企業と連携した活動の状況 - 将来展望と課題
	農業	1	- 主要農産物と近年の出荷動向、出荷農家数の動向 - 農家の生産意欲、後継者の有無（新規就農者含む） - 農地集約や委託の実施状況 - 所得向上や生産性向上に向けた取組みの状況 - ブランド化、販路開拓・地産地消の取組み
	流通	2	- 市内店舗の顧客特性 - 競合店の立地動向 - 人材の過不足感と採用動向 - 地域や企業と連携した活動の状況
	不動産	2	- 居住地としてのブランド力 - 周辺地域と比較した強み・弱み - 分譲住宅・マンションの需要と供給状況 - 住宅購入者の特性 - 賃貸物件の需要と供給状況
	教育機関	2	- 学生・生徒の受験者数や出身地域の動向 - 学生・生徒の地元就職の動向 - 地域や企業と連携した活動の状況

2 次期総合計画策定に向けた職員参画プログラム

1) 部長インタビュー

調査目的	所管部門で実施を検討している大規模施策の有無を確認するとともに、稲沢市の中長期的なまちづくりに対する考え等を把握する
調査対象	全ての部長職
調査方法	対面インタビュー
調査期間	令和8年5月
主な聞き取り項目	「所属部門」における政策課題 「所属部門」における今後の主要政策 「稲沢市」の人口減少問題への対応 「稲沢市」が今後取り組むべき重要な政策 - その他、総合計画の策定に関すること

2) 職員アンケート

調査目的	今後の稲沢市のまちづくりの方向性や、対応すべき課題などを把握する
調査対象	稲沢市職員
調査方法	オンライン画面による回答
調査期間	令和8年1月13日から2月18日
回収数及び回収率	554件
設問数及び 主な調査項目	全24問 - 回答者自身について（11問） - 回答者が稲沢市に対して感じていることについて（3問） - 回答者の稲沢市の施策に対する考えについて（10問）

3) 職員研修会

開催目的	稲沢市および市政を取り巻く環境変化や稲沢市の地域特性、市民が描く将来の暮らしの希望等に対する認識を共有する。
対象	主幹・主査級の職員50名程度
開催回数	全2回
開催時期	令和8年5月15日（第1回） ※第2回は今後実施
講師	三菱UFJリサーチ&コンサルティング 研究員
主な内容	- 次期総合計画について - 近年の総合計画の傾向 - 日本の人口動態を把握する - 稲沢市の将来人口を展望する - この10年間の変化をふりかえる 等